

# 放射能関係のお知らせ

2017年2月1回(A週)

お届け日:2017/1/30~2/3

発行日:2017/1/16

pal\*system  
生協 パルシステム

本誌は、カタログ掲載の青果について、2017/1/12(木)午前中までの放射能自主検査の結果をお伝えしています。

## ●青果 放射能が検出されていない産地(セシウム 134,137 それぞれ 3Bq/kg 以下)

分類	品目名	放射能検査の状況	
果実	いちご	品目で検査済	たまつくり・とちのみ・はが野・うつのみや・佐原・海上・遠州
	伊予柑	検査予定	南伊豆
	キウイ	品目で検査済	有機農法ギルド・小田原・やはた会
	不知火	検査予定	久望
	はるみ	検査予定	小田原・久望
	みかん	品目で検査済	小田原・久望
果菜	りんご	品目で検査済	八峰園・ゴーランド農園・雄勝・さみず
	きゅうり	品目で検査済	茨城・村悟空・佐原・サンド旭・和郷
	スナップえんどう	品目で検査済	南伊豆
	トマト	品目で検査済	うつのみや・野菜くらぶ
		果菜類で検査済	谷田部・茨城・元気会・沃土・村悟空・佐原
	ミニトマト	品目で検査済	茨城・あゆみの会・元気会・サンド旭
小松菜		果菜類で検査済	野菜くらぶ・沃土・村悟空・和郷
	アスパラ	葉菜類で検査済	うつのみや
		検査予定	さがえ西村山・利根沼田
	大葉	品目で検査済	和郷
	キャベツ	品目で検査済	海上・三浦EM・遠州
		葉菜類で検査済	あいづ・野菜くらぶ・沃土・村悟空・佐原・和郷・南伊豆
葉菜	小松菜	品目で検査済	谷田部・茨城・有機農法ギルド・野菜くらぶ・群馬モグラ会・沃土・南埼玉・佐原・八街・風土の会
		葉菜類で検査済	たまつくり・和郷
	サニーレタス	葉菜類で検査済	谷田部・茨城・常総産直・野菜くらぶ・沃土・海上・八街・和郷・風土の会
		品目で検査済	夢みなみ
	春菊	葉菜類で検査済	たまつくり・レインボー・あゆみの会・うつのみや・沃土・村悟空・佐原・サンド旭・和郷
	セロリ	品目で検査済	とぴあ浜松
ねぎ	たらの芽	品目で検査済	丸公
	チンゲン菜	品目で検査済	こまち
		葉菜類で検査済	あゆみの会・沃土・和郷・遠州
	菜の花	品目で検査済	小田原
		葉菜類で検査済	南伊豆
	にら	品目で検査済	元気会
ねぎ		葉菜類で検査済	茨城・和郷
		品目で検査済	常総・南埼玉
		葉菜類で検査済	谷田部・茨城・有機農法ギルド・たまつくり・やさと・利根川・沃土・村悟空・佐原・八街・風土の会
	白菜	葉菜類で検査済	谷田部・茨城・常総産直・八街
	ブロッコリー	品目で検査済	谷田部・茨城・野菜くらぶ・沃土・南埼玉・村悟空・海上・佐原・和郷
	ベビーリーフ	品目で検査済	フェニクス・レインボー
ほうれん草	品目で検査済	新しいわ・草の会	
		葉菜類で検査済	谷田部・茨城・有機農法ギルド・たまつくり・やさと・常総産直・うつのみや・利根川・野菜くらぶ・沃土・佐原・八街・和郷・風土の会
みず菜	品目で検査済	ふきのとう	
	葉菜類で検査済	谷田部・茨城・佐原	

分類	品目名	放射能検査の状況	
葉菜	レッコラ	葉菜類で検査済	茨城・沃土・南埼玉・和郷
	レタス	品目で検査済	野菜くらぶ
		葉菜類で検査済	常総産直・沃土・海上・佐原・サンド旭
	若芽ひじき	品目で検査済	寺島
根菜	かぶ	品目で検査済	谷田部・たまつくり・佐原
		根菜類で検査済	沃土・海上・八街・和郷
	ごぼう	品目で検査済	茨城・清瀬
		根菜類で検査済	常総・谷田部・たまつくり・やさと・佐原・和郷
根菜	さつまいも	品目で検査済	谷田部・和郷・佐原
		根菜類で検査済	常総・茨城・有機農法ギルド・たまつくり
	里芋	品目で検査済	茨城・あゆみの会・佐原・八街
		根菜類で検査済	常総・谷田部・有機農法ギルド・たまつくり・風土の会
根菜	しょうが	根菜類で検査済	村悟空・和郷
	大根	品目で検査済	沃土・海上・佐原・和郷・三浦EM
		根菜類で検査済	谷田部・たまつくり・村悟空・風土の会
	長芋	根菜類で検査済	常総・谷田部・茨城
人参	品目で検査済	常総・あゆみの会・和郷・清瀬	
		根菜類で検査済	谷田部・茨城・有機農法ギルド・たまつくり・常総産直・やさと・沃土・村悟空・海上・佐原・農法の会・八街・風土の会
にんにく	品目で検査済	八峰園・田子	
れんこん	品目で検査済	常総・たまつくり・新ひたち野・あゆみの会・佐原	

## ●2016年産米の検査

検査対象の産直産地のお米の検査を玄米で行い、検査は全産地終了しました。

2016年産の下記の産地・銘柄は、すべて不検出です。

青森県:JA津軽みらいの青森つがるロマン  
岩手県:JAいわて花巻の岩手ひとめぼれ、JA新しいわての岩手いわてっこ  
宮城県:JAみどりの宮城ひとめぼれ  
秋田県:JAこまちの秋田あきたこまち・オーリア21の秋田あきたこまち・花咲農園の秋田あきたこまち・JA秋田ふるさとの秋田あきたこまち・JAかづのの秋田淡雪こまち  
山形県:JA庄内たがわの山形はえぬき、JA山形おきたまの山形サニシキ、庄内協同ファームの山形つや姫  
福島県:JA会津よつばの会津こしひかり  
新潟県:JA北蒲みなみの新潟こしひかり・JAささかみの新潟こしいぶき・JAいにがた南蒲の新潟こしひかり・JA魚沼みなみの魚沼こしひかり・JAえちご上越の新潟こしひかり・謙信の郷の新潟こしひかり・JA佐渡の佐渡こしひかり  
茨城県:JAつくば市谷田部の茨城こしひかり  
栃木県:日本の稻作を守る会の栃木こしひかり(19検体中 17検体不検出 2検体は白米で検査を行い不検出)  
千葉県:JA君津市の千葉ふさおとめ・しば緑耕舎の千葉こしひかり  
埼玉県:南埼玉産直ネットワークの彩のかがやき  
長野県:JA佐久浅間の長野こしひかり  
放射能は玄米のぬかにたまる傾向があります。玄米で検査後、供給は白米および玄米で行います。

## ●青果の検査について

\* 北海道を除く東日本(新潟県・長野県・静岡県以東の本州17都県)のカタログ掲載産地において、分類ごとに一品目以上検査を行っています。報告の時点で検査が間に合わない品目については、供給前までには放射能検査を実施します。  
\* 旬のある果物などの検査は、シーズンでの収穫の時期のみになりますが、それ以外はおおよそ半年に1回以上の頻度で検査を行なっています。検査の日付は省略しています。  
\* 検査対象外地域でも放射能検査を実施している場合がありますが、掲載は省略しています。  
\* yumyum 果物セットにセットされている果物は、検出下限値1Bq/kgで検査を行っています。

## ●きのこ類

放射能が検出されていない産地(3Bq/kg 以下)

品目名	放射能検査の状況	
えのき茸	品目で検査済	飯山
エリンギ	品目で検査済	小川きのこ・南伊豆・渡辺のこ
生きくらげ	品目で検査済	きのこ総研
なめこ	品目で検査済	谷田部
まいたけ	品目で検査済	雪国
谷田部の若手生産者きのこセット	品目で検査済	谷田部 *しいたけ・しめじから放射能が検出されました

## ●青果以外の牛肉・卵・食肉類および加工品の対象商品はすべて検査をしています。

\* 飲酒類はみりんと料理酒を検査対象としています。

## ●検出された商品

品目名	産地名	報告日	セシウム Bq/kg
生しいたけ(原木栽培)	谷田部	2017/1/11	8.0
徳用生しいたけ(原木栽培)			
お料理セットの生しいたけ			
谷田部の若手生産者きのこセットの生しいたけ			
谷田部の原木しいたけ(はねだし)			
パルシステムの独自ガイドライン		100	
政府の基準値		100	

品目名	産地名	報告日	セシウム Bq/kg
しめじ(ひらたけ)	谷田部	2016/12/14	3.0
谷田部の若手生産者きのこセットのしめじ			
ぶなしめじ	谷田部	2016/12/14	3.1
パルシステムの独自ガイドライン			
政府の基準値		100	

品目名	産地名	報告日	セシウム Bq/kg
コアート・栃木こしひかり(玄米)	日本の稻作を守る会	2016/10/21	3.9
パルシステムの独自ガイドライン			
政府の基準値		100	

\* 白米では不検出でした

注文番号	商品名	報告日	セシウム Bq/kg
コトコトきなり 251	ひき肉と春雨のオイスターソース炒めセットのしいたけ	2017/1/11	5.3
300	塩ちゃんこ鍋セットのしいたけ		
コトコトきなり 259	パルシステムの独自ガイドライン		
295	政府の基準値		

## ●青果の検査分類表

大分類	中分類	代表的な品目名
果実(くだもの)	—	みかん、りんご、いちごなど
果菜	果菜	きゅうり、トマト、なす、オクラなど
	未成熟豆類	枝豆、いんげん、スナップえんどうなど
葉菜	結球性・非結球性葉菜	アスパラ、キャベツ、白菜、ほうれん草、小松菜、ねぎなど
	花蕾・薹菜	ブロッコリーなど
根菜・いも類	根菜	玉ねぎ、人参、しょうがなど
	いも類	さつまいも、里芋など

## 放射能基礎知識

忘れがちな、放射能の基礎知識を数回にわたり、お知らせいたします。

### 被ばくとは その8

#### ● 県民健康調査の状況

福島県では、福島県民健康調査は平成23年6月に開始されました。空間線量が最も高かった時期における放射線による外部被ばく線量を推計する「基本調査」と、詳細調査と位置づけている4調査、「健康診査」「甲状腺検査」「こころの健康度・生活習慣に関する調査」「妊産婦に関する調査」の計5調査を実施しています。また、さらに、県、市町村で実施した「内部被ばく検査(WBC)」、「個人線量計」を行い、情報公開を行っています。

(第1回学術研究目的のためのデータ提供に関する検討部会(平成28年5月31日)について  
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/ps-kenkocoya-kentoinkai-data1.html>)

2016年12月27日に公表された最新の福島県民調査報告書によると、福島県の小児甲状腺がん及び疑いの子ども達は、前回の174人から9人増えて合計183人になりました。

2016年3月30日公表の県民健康調査における中間取りまとめでは、「①被ばく線量が Chernobyl 事故と比べて総じて小さい。

②被ばくからがん発見までの器官がおおむね1年から4年と短い。

③事故当時5歳以下からの発見はない。

④地域別の発見率に大きな差がない。

以上のことなどから、総合的に判断して、放射線の影響とは考えにくいと評価する。

ただし、放射線の影響の可能性は小さいとはいえる段階ではまだ完全には否定できず、影響評価のためには長期にわたる情報の集積が不可欠であるため、(中略)今後も甲状腺検査を継続していくべきである。」という評価でした。

しかし、2016年6月に当時5歳の子どもの発見もありました。それに対して、「事故当時0~5歳であった年代の今後のがん発症の状況について注視していく」という対応となっています。

一方、「福島県立医科大学において「甲状腺ケア・サポートチーム」を立ち上げ、心配や不安に対する、こころのケア・サポートに努め、「WEB相談」による質問・相談を受け付けるなどの対応を行っている。」として、福島に住む方々の精神的なストレスが大きい現状であるとわかります。

#### ● 予防原則に則った対応の不足

現在の原発事故後の対応は、予防原則に則った対応が不足しています。

予防原則とは、「環境に深刻な回復不能な被害を及ぼすおそれがある場合には、因果関係が科学的に十分に証明されていなくても、すみやかに予防措置をとるべきであるとする考え方。」です。

過去に、樹脂のPCB、農薬のDDTも安定的で安全といわれた物質でした。放射能は少なくともリスクの高い物質であるという認識があります。それに対して、「何か起こるかもしれない」という姿勢ではなく、上記の①~④のことから大丈夫だろうということでは、予防原則の考え方での対応ではありません。

放射能は県域など関係なく拡散しました。そのため、「子ども被災者支援法」が制定されましたが、関東以北の子どもたちの健康調査は行われないようになりました。福島県以外でも、もしかしたら…という対応が望まれます。

パルシステムでは、食についての予防原則に則って、今後も商品の検査を続けていきます。

## 行政検査の検出情報

● 厚生労働省発表「食品中の放射性物質の検査結果について(第1013)」(2016/6/30~12/21で採取・購入された検体検査)より国の定めた基準値セシウム合計100Bq/kg未満で検出された検体の上位数点です。

原木シタケ: 栃木県栃木市・宮城県仙台市ほか 7.5~48Bq/kg  
ニホンジカ肉: 宮城県気仙沼市 63~73Bq/kg  
イノシシ肉: 宮城県丸森町 53Bq/kg

● 福島県の緊急調査で国の定めた基準セシウム合計100Bq/kg以上で検出された検体です。

イノシシ肉: 福島県田村市ほか 13,000、12,000、4,800、4,600、3,600、3,200、960、940、740、550、440、160、120 Bq/kg  
(イノシシは、寿命は10年程度で、タケノコ・キノコ・水生生物などを食べることや震災後の放射能の影響などがあるようです)

ヤマドリ肉: 福島県南相馬市 210 Bq/kg  
ニホンジカ肉: 福島県猪苗代町 190 Bq/kg

セシウム合計100Bq/kg未満で検出された検体の上位数点です。

大豆: 福島県白河市・二本松市ほか 4.1~53Bq/kg  
ヤマメ: 福島県桑折町(阿武隈川水系)ほか 84Bq/kg  
コモンカスペ(海の魚): 福島県広野町 20Bq/kg  
イノシシ肉: 福島県郡山市・猪苗代町ほか 10~75Bq/kg  
ニホンジカ肉: 福島県猪苗代町・南会津町ほか 28~65Bq/kg  
カルガモ肉: 福島県相馬市 39Bq/kg

## 1月の放射能検査状況

検査センターでは、1月4日から検査を開始いたしました。すでに、お届け済みのおせち、お正月関連商品からの検出はありませんでした。

1月6日までの検査で、放射能の検出はありませんでした。

乳幼児用食品は、検出下限値を4月から1Bq/kgに下げましたが、現在まですべて不検出です。

検出された商品は、すべて自主基準以内の検出でした。

放射能検査の状況(検査件数、かっこ内は検出数、網掛けは検出された分類)

	1月	12月の検出内容		1月
青果	2(0)		卵	11(0)
しいたけ	0(0)	原木しいたけ 11Bq/kg お料理セットのしいたけ 5、6.3Bq/kg	魚介類	4(0)
その他のきのこ類	0(0)	しめじ 3.0Bq/kg ぶなしめじ 3.1Bq/kg	飲料水・飲料	3(0)
米・米飯類	0(0)		乳幼児用食品	7(0)
牛乳・乳製品	4(0)		その他加工食品	46(0)
肉類	1(0)		合計	78(0)

## 2016年度の放射能検査の状況(2016年4月~12月)

青果	2016年5月に小田原のバレンシアオレンジの3件中1件から3.2Bq/kgが検出されました。2016年1月に小田原の伊予柑から5.3Bq/kg、2016年2月に小田原のはっさくから4.8Bq/kgが検出されました。
しいたけ、他のきのこ	生しいたけが(3.1~12Bq/kg)、しめじ(ひらたけ)が(3.0~3.5Bq/kg)、ぶなしめじが(3.1Bq/kg)で、放射能が自主基準内で検出されました。他のきのこ類は放射能不検出です。
*	2016年産米の検査は26産地67検体の検査を行いました。日本の稻作を守る会の栃木こしひかり(玄米)を検査したところ、2件(3.9、4.1Bq/kg)の検出がありました。検出された産地の米は、白米で検査を行い不検出でした。 米の検査は全産地終了しました。 * 放射能はぬか部分に多く蓄積します。検出されました栃木こしひかりは、不検出が確認されました白米でのお届けとなります。
牛乳、肉、卵	産地ごとに定期的に検査し今年度放射能は検出されていません。
魚介類	魚介類で放射能は検出されていません。
乳幼児用食品	検出下限値1Bq/kgで検査を行い、すべて不検出です。
その他加工食品	<お料理セット> 肉・豆腐などは定期的に検査を行っています。野菜のみを毎月検査を別途行っています。菌草類については毎週検査を行っており、しいたけおよびしいたけ水煮(3.4~11Bq/kg)から自主基準内ですが検出しています。その他の菌草類からの検出はありません。 <大豆加工品> 豆腐、納豆、味噌、醤油など大豆加工品は、2014年産および2015年産原料で検査を行っているものと、製品で検査をおこなっているものとがありますが、放射能は検出されていません。 <その他> 2016年11月にサプリメントのブルーベリー＆ルテイン(6.5Bq/kg)から自主基準内で検出がありました。

## パルシステムの放射能検査について

### ● 独自ガイドライン(自主基準)と検出限界について

パルシステムでは食品の残留放射能について独自ガイドライン(自主基準)を設定しています。放射線にはこれ以下なら安全という「しきい値」がないので、基準以下であっても、放射能低減を追求します。検査の結果、自主基準を超えるものについては供給いたしません。また、独自ガイドラインは継続的に見直しを行ないます。

自主基準(独自ガイドライン)(セシウム134,137の合計)	国規格基準	
2014年10月より現行基準	現	旧
水、飲料、牛乳、乳製品、米、乳幼児用食品	10	10
青果類(きのこ類除く)、肉類、卵、魚介類、その他食品、きのこ類(しいたけ除く)	25	50
しいたけ	100	100
一般食品 100		

\* 乾燥食品は生原料や摂食状態で検査します。(単位Bq/kg)

乳幼児用食品は「yummy」掲載商品とインターネットの赤ちゃん推奨商品。

検出限界(セシウム134,137 それぞれ)		
2016年4月1日から新基準に変更	新	旧
乳幼児用食品	1	
水、飲料、牛乳、乳製品、米、青果類、肉類、卵、魚介類、その他食品	3	3

### ● 放射能検査の対象範囲について

農畜産物とその加工品	北海道を除く東日本産(新潟・長野・静岡以東の本州産)
水産物とその加工品	日本沿岸・近海・一部の北太平洋・淡水産水産物

\* 採取禁止地域より採取されたコシアブラが道の駅で販売され、回収される事例がありました。  
計測されていない、または、計測結果を公開していない食品および、天然の川魚やジビエ、山菜、きのこ類などに注意をしてください。